

みやぎ発信型野菜「タルディーボ」の安定生産技術

農業・園芸総合研究所

1 取り上げた理由

当所では、宮城県とイタリア・ローマ県との友好姉妹協定を契機に、イタリア野菜の生産普及に向けた技術開発を行っている。これまではプンタレッラ（ローマ近郊の伝統野菜）の栽培技術を確立し、宮城県内で生産が開始されている。今後はさらにイタリア野菜の複数品目生産を目指している。

タルディーボは、キク科キクニガナ属レッドチコリー系統群の中で特に細い葉身と鮮やかな色彩を備え、北イタリア・ヴェネト州特産の高級野菜として知られている。元来は山間部の湧水を利用して生産するため、日本国内で本格的に出荷している生産者はごく少数であり、現在供給の多くは輸入に依存している。

そこで、タルディーボの栽培方法を検討し、宮城県内における株養成の作型を開発し、県内全域で安定的に生産できる技術を体系化したので普及技術とする。

2 普及技術

1) 作型

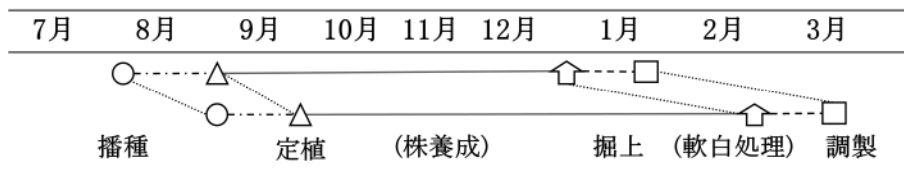


図1 宮城県内におけるタルディーボの作型

2) 株養成

a. 播種・育苗

播種時期は7月下旬から8月中旬が適する(表1)。128穴黒セルトレイに園芸用市販育苗培土を充填して播種し、発芽後30日程度、本葉3~4枚まで育苗する。

b. 定植

マルチを被覆した露地ほ場に定植する(表3)。マルチは黒または白黒ダブルを用いる。栽植密度は、1aあたり500~600株を基本とする(ベッド幅80cm, 通路50cm, 株間35~40cm, 条間25cmの3条千鳥植え)。施肥量は窒素成分で1.0kg/a程度の全量基肥施用を標準とし、土壌分析結果に基づいて調節する。定植直後は苗の乾燥に注意する。



図2 掘り上げ適期

3) 軟白処理, 出荷前調製

12月中旬以降, 中心葉が赤く着色したら, 株を掘り上げる(表2, 図2)。

掘り上げた株は, 温度13~15℃, 暗黒条件の施設内に搬入し, 浸水状態でそのまま2~3週間静置する(図3)。

内部葉が十分に生育したら, 外葉を除き, 細根を削る(図4)。



図3 株を入れた容器

4) 計画生産

タルディーボは宮城県内で冬季に無加温で生産可能であり、養成株は掘り上げずには場で維持できるので、出荷日にあわせて掘り上げ、軟白処理することによって、計画的に生産できる。



図4 調製株

3 利活用の留意点

- 1) 7月中旬以前の播種は、腐敗株、抽だい株や分げつ株が発生し収穫率が低下するので避ける(表1)。
- 2) 株養成中に著しい減収をもたらす病虫害被害はほとんど見られないため、薬剤散布や防虫ネット展張等の防除作業は不要である。
- 3) 養成株の掘り上げ時期は、色彩品質の良い12月中旬から2月上旬が適期である。2月下旬以降に掘り上げると、中心葉の退色が始まり色彩品質が低下する(表2)。

(問い合わせ先：農業・園芸総合研究所 バイオテクノロジー開発部 電話022-383-8131)

4 背景となった主要な試験研究

- 1) 研究課題名および研究期間
園芸作物のオリジナル品種育成(平成18~20年度)
タルディーボの低コスト・多収生産(平成21年度)
- 2) 参考データ

表1 播種日と収穫率(平成20年度)

| 播種日 | 抽だい率(%) ^z | 腐敗株率(%) ^z | 収穫株率(%) ^y |
|------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 5/22 | 3.8 | 47.6 | 29.5 |
| 6/20 | 0 | 19.5 | 73.3 |
| 7/22 | 0 | 0.5 | 98.1 |
| 8/25 | 0 | 0 | 98.6 |

z) 抽だい率, 腐敗株率: 平成20年12月3日調査
y) 収穫株率: 定植株数に対する軟白株数の割合

表2 掘り上げ時期と生育, 着色状況(平成20年度・所内試験)

| 軟白処理期間 ^z | 播種 | 掘上直後 | | 調製後 | |
|---------------------|------|-------|-------|-------|------------------------|
| | | 株重(g) | 株重(g) | 葉数(枚) | 着色程度(4~1) ^y |
| 11/12-12/3 | 5/22 | 222.5 | 55.5 | 13.5 | 1.5 |
| 12/12-1/5 | 7/23 | 218.3 | 91.7 | 18.0 | 3.0 |
| 12/24-1/19 | 7/23 | 191.4 | 127.7 | 29.1 | 2.7 |
| 2/16-3/9 | 8/22 | 115.5 | 134.0 | 34.0 | 2.8 |
| 2/25-3/16 | 9/24 | 123.8 | 80.5 | 23.5 | 1.3 |

z) 11/12-12/3, 12/12-1/5, 12/24-1/19の期間の軟白処理は, 恒温槽内で行った。
y) 着色程度 1: 黄白色, 2: 薄赤色, 3: 暗赤色, 4: 濃鮮赤色(数値が高いほど高品質)

表3 収穫調査(平成21年度・現地試験)

| 試験区 ^z | 播種日 | 調製後 | | | |
|------------------|------|---------------------|-------|--------|--------------------------|
| | | 収穫率(%) ^y | 株重(g) | 葉長(cm) | 着色程度(4~1) ^{x,w} |
| マルチ被覆区 | 8/20 | 93.5 | 147.0 | 17.8 | 3.5 |
| 無被覆区 | 8/20 | 93.3 | 80.0 | 13.4 | 3.4 |

z) いずれの試験区も株間40cm y) 収穫率=定植株数に対する出荷株数の割合
x) 収穫調査4回: 1月5日, 1月13日, 1月22日, 2月3日
w) 着色程度 1: 黄白色, 2: 薄赤色, 3: 暗赤色, 4: 濃鮮赤色(数値が高いほど高品質)

- 3) 発表論文等 東北農業試験研究 第62号